優秀賞

分ければ資源、混ぜればゴミ

四年　松元　有結

私は夏休みに、リサイクルプラザJBを見学し、リサイクルについてたくさんのことを学びました。見学する前と後ではリサイクルに対する考えが大きく変わりました。

工場見学に行ったのは、学校で習ったことを復習し、教科書の写真だけでは分からないことを、自分の目で確かめたかったからです。

見学前の私は、リサイクルボックスはゴミの箱のようなものだと思っていました。でも、ペットボトルも、ラベルやキャップをつけたまま入れていいと思っていました。でも、ラベルやキャップがついていると、工場の人が、取り外さなければなりません。また、ペットボトルの中にゴミや、飲み残しを入れるのもいけません。分別がうまくできなくなったり、工場がくさくなったり、機械がこわれたりすることもあるそうです。

私は、「自分では小さなことだと思っていた

たことが、工場では、大きな問題になるんだ」と驚きました。そして、リサイクルは工場の人だけがするのではなく、私たちが、正しく分別するところから始まっているのだと気付きました。

工場では、ペットボトルなどを固めた「ベール品」について教えてもらいました。一つ約二十キログラムで、約七百本のペットボトルが使われています。一時間に二十五個もの作られると聞き、驚きました。一本一本のペットボトルが集まると大きな資源になることが分かりました。

さらに、ペットボトルをくだいて、「ペレット」にし「プリフォーム」を作り、トルtoボトル」や「水平リサイクル」といった言葉は、「分ければ資源、混ぜればゴミ」です。正しく分別すればそうです。

私の心に一番残った言葉は、「分ければ資源、混ぜればゴミ」です。正しく分別すれば

資源になるものも、ゴミや異物が混ざると、リサイクルできなくなってしまいます。

今回の見学を通して、私は「少しくらい大丈夫」と思わないことが大切だと学びました。

ラベルやキャップを外す、ペットボトルを空にする、ゴミを入れない。どれも小さなことですが、みんなが続ければ大きな力になります。これからはリサイクルの入り口である分別を責任を持ってやっていき、家族や、友人など、周りの人にも伝えていきたいと思います。